

視覚障害者向け専用ラジオ JBS

JBS通信

2013年1月号 No.17

[発行]

JBS日本福祉放送 (社会福祉法人 視覚障害者文化振興協会)

〒534-0026 大阪市都島区網島町4-12

TEL 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401

URL <http://www.jbs.or.jp>

発行責任者 川越利信

東京五輪招致の実現に向けて(1) パラリンピックを日本で

いよいよIOC(国際オリンピック委員会)の最終審査が近づきつつある。もちろん、2020年のオリンピック開催地のこと。

施設・会場、経験、開催準備金四千億円の用意などで高い評価を得ている反面、地震災害の可能性や国民の支持率の低さで減点されている、と言われている。「日本人は、イエス・ノーをはっきり言わないので消極的な支持ととられる可能性も…」と心配を語る猪瀬都知事。

積極的に意思表示をして、もう一度、日本へのオリンピック招致を実現したいと切に思う。



陸上女子200m予選、力走する中西麻耶選手(中央)



陸上男子5000m(T11クラス)で銅メダルを獲得した和田伸也選手(左)と伴走者

JBSでは、1996年のアトランタ大会以降、継続してパラリンピックの模様を伝えてきた。今後は、更に詳しく、伝える機会も多くしたい。

2012年のロンドン・パラリンピックでは、20競技503種目が行われた。1964年の東京オリンピックは、実は脊髄損傷者のための大会で、私たちがイメージするパラリンピックではなかった。

そういう意味において、北京やロンドンで行われた「パラリンピック」を日本で、是非、開催したい。

国家スタジアム鳥の巣で、北京パラリンピックのもようを生中継中のJBSスタッフ。(左から)渡邊哲意、生田さり、宓冬瑩



ロンドン・パラリンピックのもようを放送するパーソナリティの吉岡久美(右)と吉富順子。JBSスタジオで。

ちょっとぜいたくなJBSの楽しみ方
音楽&JBSをUSENで!

USENは24時間のノンストップ放送で、500チャンネル勢揃い。
快適な音楽生活をお約束します♪

USEN

JBSクラブ会員様なら月額使用料 6,000 円のところ→3,000 円(税別)
お問い合わせ・お申込みはJBSまで。
電話 06-4801-7400 FAX 06-4801-7401 URL <http://www.jbs.or.jp>

USEN広告

ボランティア活動の支援情報

自宅から生放送

音訳者のためのPCミニ講座が好評です。予定よりも多くの音訳ボランティアが受講され、技術担当者（川原）も手ごたえを感じています。

現在、14名の方が受講され、7名が自宅から新聞音訳のデータを送ってくださいっています。2月8日には5名の方が新たに受講予定です。

JBSとしては、音訳ボランティアの皆さん全員に受講して欲しいと願っています。

掲示板の活用を

掲示板を使って音訳ボランティアの活動を支援するための情報をできるだけ頻繁に発信したいと考えています。

意見や感想を遠慮なく掲示板に書き込んでください。ボランティア活動の容易化に役立てます。



シフト表

シフト表は、エクセル版とPDF版の2種類があります。

PDF版は、以前のフォーマットで、拡大が可能です。

大いに、ご活用ください。

音訳者向け図書

視覚障害者録音図書製作のために必要な知識・技術を身につけることを目的にした図書です。図書は、スタジオにありますので、ご自由に利用してください。生放送での新聞音訳者にも有効です。

◆音訳テキスト

「デジタル編集入門編」

◆音訳マニュアル

「処理事例集」

「音訳・調査編」

「デジタル録音編」

「デジタル編集事例集」

防災・減災

昨年末『みんなで知っ得【助かる】視覚障害者のための防災対策マニュアル・増補版』というマニュアルが発刊された。よく考えられていて読みやすく理解しやすい。お薦めの一冊。お問い合わせは事務局まで。



東日本大震災 第9回支援活動

3月中旬に実施

JBSでは、岩手県の山田町で、第9回の支援活動を実施する計画を進めています。

ボランティア・グループの皆さんと音訳スキルアップを目的として一緒に学習します。

同行を希望される方は、JBSの事務所までご連絡ください。TEL 06-4801-7400

嶋本昭三さん死去

欧米で評価の高い前衛美術家嶋本昭三さんが、1月25日、急性心不全で死去された。85歳でした。

嶋本さんは、日本障害者文化協会の会長を務めるなど障害者福祉・文化に理解が深く、本会の理事としても長年尽力された。



お元気な頃の嶋本昭三さんと
愛弟子 半田まゆみさん(JBSの理事)

編集後記 東奔西走しているうちに発刊が遅れてしまいました。

しばらく障害者スポーツを継続的に伝えし、社会の多くの方々に理解していただき、結果、障害者の就労に結びつけたいと願っています。(川越)